

## アジア大洋州医師会連合（CMAAO）の活動

2020（令和2）年度は、9月にCMAAO台湾総会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、2021（令和3）年に延期することになった。

8月末、日医はCMAAO事務局として、1年間の活動とCOVID-19の状況について情報共有を図るため、加盟各国医師会に対してカントリーレポートとCOVID-19対策に関する報告書の提出を依頼した。提出された報告書は、11月にCMAAOウェブサイトに掲載し、公開している。

日医のカントリーレポートでは、6月27日に中川俊男会長が会長に就任して新執行部が発足し、菅義偉内閣総理大臣、加藤勝信官房長官、田村憲久厚生労働大臣らと会談を行い、政府と医師会のCOVID-19対策での協力関係の継続を確認したことを報告した。日医のCOVID-19への対応として、「今後の感染拡大を見据えたPCR等検査体制の更なる拡大・充実のための緊急提言」の公表（8月5日記者会見）、「みんなで安心マーク」の発行、都道府県医師会新型コロナウイルス感染症担当理事連絡協議会の開催について説明した。また、COVID-19拡大下で時限的・特例的対応として行われているオンライン診療について、見解を示している。

日医のCOVID-19に関する報告書では、日本のCOVID-19対策について報告した。日本では、インフルエンザをはじめ各種抗原迅速診断キットが幅広く普及しており、病原体検索のためのPCR検査需要が少なかったという背景により、2020（令和2）年2月時点でのPCR検査実施可能数はかなり少ない状況であった。そのため、個々の感染の関連が疑われる集団発生事例（クラスター）に検査を集中させ、なるべく早期にクラスターを封じ込め、クラスターから別のクラスターに飛び火させないことに注力した。これらのクラスター分析の中で、「3密（密閉・密集・密接）」により感染拡大が助長されることが判明し、このリスクを回避することで感染防止につなげる対策を行ってきたことを説明した。また、人と人との身体的距離の確保、手指消毒、適切なマスクの着用、室内の換気の励行、リスクの高い「3密」状態を避け、大きな声での会話を控えること等、新しい生活様式について紹介している。